六郷わがまち

発行　わがまち大田
六郷地区推進委員会
編集　「六郷わがまち」編集委員会
事務局　大田区六郷特別出張所
〒144-0055
大田区仲六郷2－42－2
電話　03（3732）4885㈹

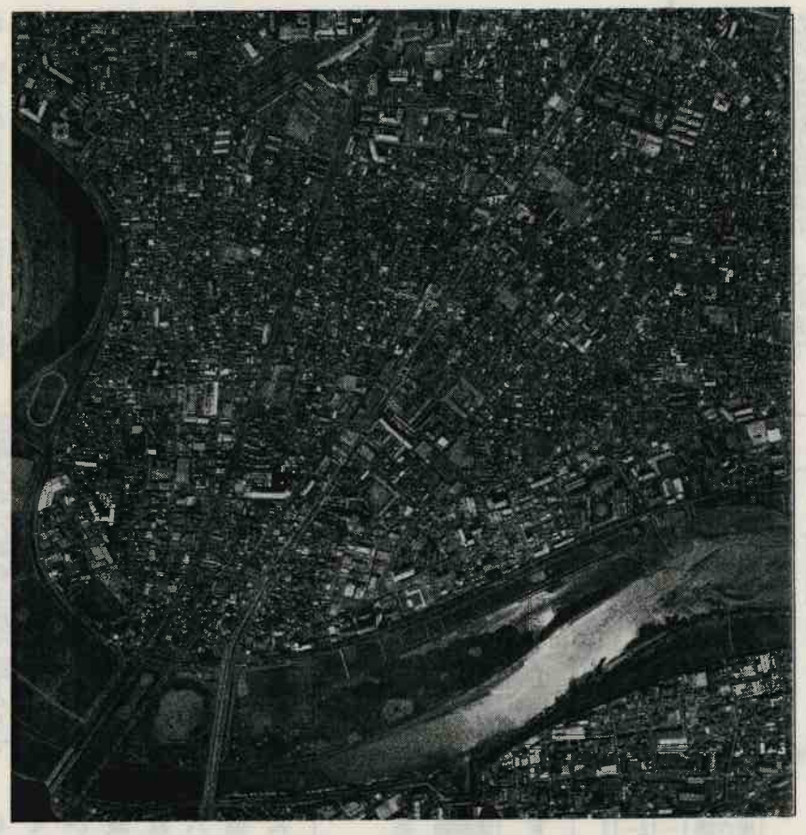
六郷特別出張所管内	
人口	男31,908名
	女30,254名
	計62,162名
世帯数	28,052世帯
平成13年11月1日現在	

転換期にさしかかっている
――工場跡地の変化を調査して――

前号で工場跡地の変化についての解説を書くと約束しましたが、考えてみれば一朝一夕にできるはずもなく、後悔先に立たずと頭を抱えています。やむなく六郷の工場がどのような展開をとげてきたか、その歴史のあらましを記して責を果たします。（平野順治）

昭和50年代には

わが国の高度経済成長が続いていた昭和45年の『大田区工業名鑑』を見ますと、六郷地区の従業員101名以上の主要工場は42社を数えます。これに比べると、前号の調査で用いた昭和53年の『大田区工業名簿』では28社と大幅に減っています。↖



空から見た六郷わがまち
（平成12年4月18日撮影・中日本航空）

社もありました。　種別で見ますと、最も多いのが金属製品製造業365、一般機械器具製造業334、これに電気機械器具製造業100が続いています。大田区は機械金属工業の集積地として、東京23区の中の最大の工業地でしたが、六郷地区はまさにその典型のような存在だったということがわかります。

このような工場分布の中で調査対象としたのは、CDEの工場を中心とした126社、ちょうど全体の10％で、圧倒的多数を占めるAクラスの工場までには手が回りませんでした。しかし前号に掲載した「工場の跡地は、このように変わった！」という地図をご覧いただいただけでも、びっくりするほどの変化を読み取ることができたのではないでしょうか。

しかし昭和50年代は、二度のオイルショックを乗り切り、わが国がアメリカをしのぐ勢いで経済大国となりつつあった時代で、決して低迷・沈滞の時期ではありません。53年には経済成長率も年率5％台を回復し、GNP（国民総生産）も55年には240兆円に達しています。

このような情勢が今からちょうど20年余り前に当たり、六郷地区のその後の変化を考えるうえで便利なため、53年版の工業名簿に注目したというわけです。

当時、六郷地区の工場はA（従業員50名以下）1191、B（100名未満）20、C（300名未満）20、D（500名未満）7、E（500名以上）3、その他11で、合計1253

工場の地方移転

工場の地方移転については、『大田区史』下巻が、「国の工場分散政策による工場制限三法（工場等制限法・工場立地法・工業再配置促進法）などの法規制や、公害防止に関する法規条例の強化によって、立地や設備の拡張がむずかしくなってきたことにくわえ、高度成長期に若い労働力の確保が困難であったこと」などを、その原因として挙げています。

六郷地区の大工場では、昭和34年に大倉陶園が横浜市戸塚に、宮田工業㈱が39年に茅ヶ崎市に転出したのが早い方で、40年代に入ると移転していく工場がめだってきます。南六郷一丁目の㈱小知和製作所・不二電機㈱、南六郷二丁目の特殊製鋼㈱・東京高級鋳物工業㈱、東六郷一丁目の和光電機㈱、仲六郷一丁目の東洋オーチスエレベータ㈱、西六郷一丁目の興立産業㈱・報国チェン㈱などが、昭和60年までに転出しています。

快適な環境へ

工場の跡地にできたマンションの年代については、大ざっぱに昭和期と平成期に分けてみますと、現在のところ、ほぼ五分五分といっていいでしょう。

マンションの建設は今も続いており、これから必要なのは、マンションに住む人々も進んで地元町会の住民と折りある毎に交流・親睦をふかめ、より健全で明るいコミュニティーを築いていくために、新旧一体となって協力し合っていくことではないでしょうか。

大小のマンションのほか、工場跡地には学校・図書館・文化センター・児童館・保育園・福祉園・排水ポンプ場など各種の公共施設ができ、「六郷わがまち」のアメニティ（快適な環境）は以前とくらべ確実に向上しているといえましょう。

R70 この情報紙は古紙70％の用紙を使用しています。

☆平野順治著『六郷今昔小誌』が、六郷地区自治会連合会から発行されました。ご希望の方は六郷特別出張所でおもとめください。1冊￥300

六郷工場化のあらまし

昭和3年「工場地域」に指定される

大正11年測図・昭和3年修正測図「蒲田」1万分の1の地形図で、六郷地区にある工場の記号をさがしてみますと、

＜南六郷＞武沢醤油製造所・武沢味噌製造所　＜東六郷＞エービーシー製菓㈱・㈱二幸蒲田工場・三河屋製菓㈱　＜仲六郷＞小竹麻糸工場・東京電力六郷変電所・三省堂蒲田工場　＜西六郷＞大倉陶園・大竹製菓㈱・多田製作所（報国チェンの前身）という10カ所にすぎません。

ところが実際はこれと大きく相違しています。昭和3年といえば六郷村が六郷町となった記念すべき年で、『荏原六郷史』という本が同年4月1日現在の「町制一覧」を載せています。その中の工場の欄を見ますと、意外にも工場の数は58もあり、この地域がすでに住工混在地帯になりつつあったことがわかります。生産額がとびぬけて高いのは印刷と菓子で、これは三省堂と大竹製菓・エービーシー製菓・三河屋製菓によるものと考えられます。

ところで六郷町は昭和3年、蒲田町・羽田町・矢口町とともに、内務省から「工場地域」の指定を受けています。こうなると、それまで3工場（三省堂・小竹麻糸・大竹製菓－大倉陶園は当時まだ六郷町に含まれていないので除く）にすぎなかった商工省令該当の工場が、翌4年には14倍近い41となり、5年には61、6年には65と急速度に増加して行きます。

めざましい進出

昭和7年、六郷町は東京市に合併して蒲田区に編入されますが、翌8年12月末の蒲田区の調査から職工25人以上を使っている六郷の工場を抜き出してみますと、32社を数えます。

それから2年後の10年9月の調査になりますと、六郷町の工場は大小合わせて177、この数は羽田町の115、大森町の161を抜いて、蒲田区では断然トップに立っています。

昭和12年に日中戦争が始まると、軍需景気の波に乗って六郷地区の工業化はいよいよ盛んとなり、これといった空き地もないくらい大小の工場が立ち並ぶことになりました。↖

近代の三大変革

以上のような工場の進出にともない、人口も住宅もいちじるしく増加し、六郷地区の都市化は目に見えて進みますが、それを容易ならしめた前提として、次に述べるような三大変革の成功を挙げることができると思います。いずれも大正7年（1918年）からスタートした事業です。

第1は、内務省による多摩川の河川改修工事によって、堅固な今の堤防が築かれ、それまでの水害常習地帯から脱したことです。

第2は、築堤の剰余土を利用して水田や荒蕪地の埋め立てが広範に行われ、それと併行して進められた耕地整理事業によって、錯雑していた土地の区画整理と、それに付随する道路・下水道の新設で、今日見るような近代的な社会基盤が形成されたことです。

第3は、六郷のバックボーンともいうべき東海道の拡幅舗装工事によって、京浜国道が昭和2年に開通し、すでに完成していた六郷橋を介して京浜間の交通の便が飛躍的に増大したことです。

戦後の工場変化

昭和20年4月15日の大空襲で六郷地区は一面焼土と化し、多くの工場も潰滅的被害をうけました。26年刊の『大田区史』が、25年末の六郷の主要工場として記録しているのは、表1のようにわずか11社にすぎません。

しかし朝鮮戦争の特需をきっかけに、その後の復興はめざましく、ふたたび「けむりは高くたえずなびき　工場ひろくつらなり立つ」（昭和30年制定の六郷小学校の校歌）町となっていきました。↖

ちなみに、31年度の『経済白書』は「もはや戦後ではない」と宣言しましたが、30年当時、東京23区の中で第3位だった大田区の製品出荷額は、35年には第1位となっています。

このような躍進ぶりはそっくり六郷地区にあてはまるようで、45年版の『大田区工業名鑑』から従業員301名以上の大工場を抜粋しますと、表2のように13社を数えることができます。

ところが、それから15年後の『工業統計』になりますと、おそらく前に述べた工場転出などの影響でしょうか、従業員200名以上の工場は6社と半減してしまいます。しかも45年当時から引き続き操業しているのは、表2の中の1・2・4・6の4社だけで、これに㈱永谷園本舗六郷工場と江崎グリコ㈱東京工場が加わって、6社という構成になっています。

現在はその6社の中からさらに㈱各務クリスタルが平成6年に、第一屋製パン㈱が同12年に、転出しているという状況にあります。

六郷わがまちは農村から工場の町となって発展したものの、もはやその基本的性格は崩れつつあり、大きな転換期にさしかかっている、といっても過言ではないでしょう。

	名称	所在地	製品名
1	株式会社小知和製作所	南六郷一丁目五〇	産業用機械、冷凍機械
2	関西ペイント株式会社東京支店	南六郷三丁目一二	ラッカー、エナメル、ペイント ボイル油、ワニス
3	車輪工業株式会社	南六郷三丁目一三	自動車用車輪
4	株式会社宮田製作所	東六郷二丁目一九	自転車
5	共立金属工業株式会社蒲田工場	東六郷二丁目七二三	トラック、トラクター修理
6	東洋オーチスエレベータ株式会社	仲六郷一丁目六	エレベーター、エスカレーター
7	三機サッシ工業株式会社六郷工場	仲六郷四丁目一	ドアー、サッシュ、シャッター
8	株式会社各務クリスタル製作所	西六郷一丁目七	硝子製品
9	報国チェン株式会社	西六郷一丁目一八	自転車用チェン
10	山武計器株式会社蒲田工場	西六郷三丁目四八	工業用計器類
11	日本エボナイト株式会社蒲田工場	西六郷三丁目五二	エボナイト板、エボナイト槽

表1　昭和25年末の六郷地区の主要工場

	事業所名	住所	従業員規模	主要製品
1	第一屋製パン㈱	東六郷2－18－2	E	各種パン，ケーキ
2	関西ペイント㈱東京工場	南六郷3－12－1	E	各種塗料
3	不動化学工業㈱	西六郷4－11－26	D	樹脂
4	㈱各務クリスタル製作所	西六郷1－12－23	D	クリスタルグラス
5	本州製缶㈱蒲田工場	南六郷2－22－1	D	18ℓ缶
6	㈱小知和製作所	南六郷1－29－1	D	化学機械　他
7	興立産業㈱	西六郷1－19－10	D	自動車部品等
8	東洋オーチスエレベータ㈱	仲六郷1－6－3	E	エレベーター
9	報国チェン㈱	西六郷1－26－5	E	自転車用チェン
10	日興電機工業㈱	東六郷1－12－11	E	電動機　他
11	不二家電機㈱	南六郷1－33－8	E	小型モーター　他
12	山武ハネウェル㈱	西六郷4－28－1	E	工業計器　他
13	和光電気㈱	東六郷1－25－3	D	高圧水銀ランプ他

表2　昭和45年版『大田区工業名鑑』の従業員301人以上の75工場の中より抄出

文部科学大臣賞受賞
古川一安氏

青少年対策六郷地区委員会会長の古川一安氏は、多年にわたり社会教育に尽力された功労によって11月22日、めでたく文部科学大臣賞の栄誉に輝きました。

訃報

▼「六郷わがまち」創刊以来の編集委員・吉野倫子氏は6月12日に逝去。58歳。

▼前西六郷二丁目町会長・小林哲夫氏は9月2日に逝去。78歳。

謹んで哀悼の意を表します。

編集委員長＝平野順治　編集委員＝竹内昭信・高橋ハルヨ・先崎佳子・瀬谷角太郎・中島寿美・星野薫・溝尾辰雄・平野みよ子・柳　登志靖・佐久間啓治・宮崎豊・若月順子・大湊幸子・池中武雄